

# ボランティアホリデー参加者 終了感想文

現地参加プロジェクト: ① Independent project  
(活動内容など) ... 骨髄損傷の為車いす生活をして  
いるクライアントの住み込みケア。  
② ラバウル大学project ... 2~3人の障害を持った学生のサポート  
大学内の寮での生活。

感想: Londonで2週間、ワト島6週間の石井修を終え、最初のProject  
のあるCornwall (住いす最西端...)へ移動しました。これまでの私の仕事は、  
骨髄損傷の為車いす生活をしているクライアントの家に住み込みでケアをする事でした。主な仕事  
は、掃除(毎日) ... 洗濯、シャワー、着替え、その他身の回りのケア、軽い朝食(主にビスケットのみ)  
これが終わるのがだいたい11時頃です。その後1時頃軽いランチ。フォークは使えるので、  
食べやすいように切っておげたりします。それまでの時間で、これらの仕事と同時に、家の  
そうじ、(ゴミ箱、モップ、トイレ、バスそうじ) + 犬の散歩、お洗濯...の仕事もします。なんて忙しいの?  
と思うかもしれませんが、平日の午前中は、もう1人のケアマン (Supervisor) が来て、仕事は半分...  
というより、主に手伝う...という感じです。② ... DinnerのCooking、ベッドに入れる、着替え、  
洗濯、が主です。これらの基本的な仕事プラス、買い物や、彼のしているチャリティ7-7のお手伝い  
(ミーティングに付きそったり、書類の整理、小切手の記入... などなど)。正直、はじめの1ヶ月  
までは、今まで全くケアマンとしての経験の無い私にとっては、きつかったです。更に11月3日  
には、色々教えてくれるはずだったSupervisorが体調をくずした為、全てを私のやりで、こなさなくて  
はならず... 自分の時間などほとんどなく、おるのがやっとなりました。それでもその時、クライアントは  
しよもないギャグ等、助けてくれました。(いもだて...)。そしてそんな大変で先の見えなめれた  
仕事も、気が付かぬうちに、すっかり慣れてしまいました。これには正直私も驚きました。始めの3日前  
から、何度も、"はじめの1ヶ月は、みんなつらいんだ。"と言いつづけておりましたが、本当に、本当  
でした。彼はとてもお話し好きで、しよもないTV番組や、前のCSVボランティアのお話し話  
等をつねにしていました。ただ関係が近くなればなる程、お互いわがままな所や本音が出て  
しょうものですが...。はじめは私はケアマンなんだ...と自分をおさえていた頃もありましたが、やはり  
それは状況は改善されない...と、色々話す為には、解決した事も多くありました。特に、  
このProjectの場合、(ほとんどがクライアントと私の一対一。楽しい時はいいのですが、もちろんお互い  
けんかする事もあるけど...)。その時にどう解散するか...がとっても重要になってきます。そういう事で  
このProjectが一番私が学んだのは一対一の付き合い方という事だと思います...。正直そういう  
煮つめていた時期もありました...。しかし、その時だけの感情で行動しない事、そして本当に相手の  
事を考えて行動する事。正直はわがままでも、実際に実行するのは、とてもお話しなんだと感じ  
ました。それでも、彼はとてもActiveな人だったので、車いす生活初の魚釣り(準備も含め、道のり  
は長かった...。でも成功して魚をゲットした時の喜びは...)。子供時代に住んでいた所(アール(異国))、  
ラグビーを見に行ったり、決してたいていする事のないProjectでした。毎日の生活を、住いす人と共に  
するという事は、日常そのものがBritish Cultureな感じで、ガーデン等、イベントももちろん、Cooking

TV、買い物、もちろん英語(スラングも含めてかな?)も、自然に知ることができず。1人の人ともじっくり話していく事でいろんな表現を学ぶ事が出来ます。

とそんななかで、6ヶ月のこのProjectを終了し、今度はイギリス中部 Loughborough (ラッパ) というところの大学での Project に移動してきました。前の Project とは 180度と違って、環境は違いました。まず、ここでは大学の寮に住み、4~5人の障害のある学生たちのサポートをし封。合計 CSV が3人いるので、毎日それぞれ仕事をシェアし封。仕事は障害の度合いによって大きく変わります。この時期は月齢性で車いす生活の男子、盲目の人、半身マヒの人、身長100cm くらいの女子... でしたが、主に学食、授業に連れていく、お風呂に行く、着替えの手伝い、買い物等です。彼らももちろん寮に住んでいるのですが、当然、他の学生達も一緒に住んでいて、食事は毎回学食でおいしい...。特にこの寮は International Student の多い寮のおかげでたくさん友達が出来ました。今更、Independent project の ワイフとのお話ですが、お話を聞いてくださった私に、色々な人と(しかも世代の同じ...) 話す機会を与えてくれた。が、周りの友達も母国語は英語ではないので、(もちろん私にはへんげりだけ...) やはり Native の英語から学ぶ程の効果は得られなかったと言え封。ここでは、前の Project で、自分自身と単独ながら、日々色々考えたが行動していたのに対し、毎日楽しい事に身を任せ、Project 終了後に行く旅行の事で頭がいっぱいと、欲望のままに生活していた気がし封。楽しいからといってそれが自分にとっていいとは、限りません。私は2つの両極端の Project を経験してどちらが自分にとってプラスで学ぶ事が多いか考えていた時、おそく Independent の方を選んでし封。もちろん大学での Project での たくさんの友達との出会いはとても大切です。色々な国の考え方の違いに驚いたし、また日本人も実は変わってるんだ... (良い意味で?) と再発見したり...。フタ、とらえ方次第でプラスにもマイナスにもなるのです。

これから、ボランティアホリデーに参加しようと考えている皆さん、日本を離れて、生活するという事で得る物、感じる事、再発見する事... は、まあいかに想像以上です!! 日本にいて思いつかないような行動をとる人や、考えられない事を言う人... 状況は色々です、もちろん、楽しい事だけでは無いです。(まあいかに!) 涙を流す事もあると思います。反対に嬉しくて涙を流す事もあると思います!! そして、私が助けられた事... それは、一緒に参加したり、活動してきたボランティアです!! 特に Independent project の時... 久々に友達と会ってワイワイしたり、時には真剣に話し込んだり... 何気ないこの出会いが最高のリフレッシュで、また頑張ろうと思え封。この横のつながりは絶対に大切にしてください。

ボランティアの友達に言われた言葉で心に残っているのが、"If you are carer, you should look after yourself first, otherwise you can't look after others!" これはワイルドで Social English を教えてくれた先生の言葉だそうだが、強く心に残っています。また、あるボランティアは「このボランティアで、自分自身の事二つに考えれば、思わなかったー!!」と言っていました。私も全く同じ事を思いました。ボランティアホリデーを通して皆さんが貴重な経験をたくさんして、またあらたに自分自身を発見していくといいなーと強く、強く思います。そしてこの1年間、たくさんの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。この経験が大きな事になり、心から感謝し封。そしてこれからそれを生かしていくようにまたあらたに進んで行きます。

# ボランティアホリデー参加者 終了感想文

現地参加プロジェクト: Volcare  
(活動内容など)

(在宅レスパイトケア)

感想:

私が派遣されたVolcareは訪問型でレスパイトケアを提供する極めてユニークなプロジェクトです。基々私がCSVに興味を持ったのもこのプロジェクトに興味を持ったから。CSVディレクターとの面接の時、必死に私がどれほどこのプロジェクトと熱望しているのかを伝えました。ラッキーにもそのディレクターが私の希望を覚えていてくれた事、たまたま私がボランティア開始を希望していた時期にプロジェクトに空かっていたため希望通りのプロジェクトに派遣してもらえることができました。

しかしながら、ボランティア開始後3ヶ月は私にとってとてもハードでした。日本で看護婦として病院で5年間勤務していたため、介護自体は必ずかしくはありませんでした。主な私の役割は、大体朝10時頃までにクライアントのお家へ行き、家族の人と交代して介護をします。家族の人が外出している間、クライアントにお茶をいれてあげたり、ランチを作って一緒に食べて、介助が必要な分食べさせてあげて、おトイレを少し手使してあげたり、一緒にTVをみたり、時々新聞を読んで"とたのまれる事があり、これは少し困りました。というのも私の英語力が新聞を読んで内容が理解できる程十分ではなかったため、一生懸命それらしく発音したところで、お互いに何を言っているのかさっぱり分かりず???ほとんど1日だけの訪問なので夕方には家族の人が帰ってきて私は自分のフラットに帰ります。

それでも仕事に慣れるまでは、私の英語力が十分ではなくクライアントやスーパバイザーとコミュニケーションを取りの難しく、また初めての外国生活で何をやるのもナーバスだったため気を遣うことが多く、簡単ではありませんでした。しかし友達が増え、生活に慣れるにしたがってだんだんとこの国の生活を楽しめるようになりました。

時々泊まり込みの仕事があります。週末だけの泊まりから長い時で10日程。介護といっても主な役割は家事なので花嫁修業をしているような気分になります。

日替わりで色々なお家を担当するので、通算で15家族を~~種~~担当しました。



# ボランティアホリデー参加者 終了感想文

現地参加プロジェクト:  
(活動内容など)

コミュニティサポート  
デセンターの Staff の補助

感想: このプロジェクトに参加するまでは、福祉というものに携わったこととはなく、私に務まるのつらさかと思いつけがらの参加でした。しかも、英語という大きな壁のある外国での活動だったので。しかし、このプロジェクトを終った今、介護と異文化を体いっしょに体験できた素晴らしい時間だったと思っています。

私が派遣されたのはコッツウオリスの近くの小村にある Learning Disability team でした。ここでは、知的障害・身体障害をもつ人々のためのデセンタを中心に、日常の活動支援、独立して生活するためのサポートを行っています。私はこのデセンタに所属し、そこで生活をしている Client のフラットに付き、彼女の生活全般のサポートをするということを中心的な仕事としていました。彼女は、右半身に少し障害があるもののかなり自立しており、私の役割としては、料理や買物の補助、入浴や掃除の折洗い程度でした。お金の管理についても彼女自身が行っているため、光熱費等の支払いも彼女の責任で行います。私は、支払い忘れがないように、時々彼女に尋ねて状況を確認するということをするだけでした。彼女自身も、自尊心が高く、あまり障害者として扱われるのを好まなかった。フラットでは彼女の主体性にまかせ、世話をするというよりは、一緒に生活するフラットメイトとして接するようになっていました。怪しい時間は、お茶を飲みながら一緒にテレビを見たり、話をしたりというように。最初の頃は、同じ家で常に一緒に過ごすというよりは、仕事とプライベートの境がほぼ大変だと思っていましたが、たんと彼女と過ごす時間は仕事という感覚が無くあてはまってしまうように思います。知的障害もあまりなかったことで、ニュースの話やイギリスの歴史、文化の話などは、彼女から学ぶことも多かったです。彼女の行動をある程度は常に把握しておく必要はありません。

その他に、彼女がデセンタに行っている間、私はコミュニティサポートの一員として、近くに住む数人の Clients、主にセンターに日々通う人たちに付き、彼女を訪問し、食事や掃除の折洗い、またお茶を話し相手として過ごすという活動もしていました。彼女は皆、独立して生活しています。私は彼女に足りないことを少し助けてあげればよいのです。その日のメニュー(掃除や買物など)が終われば、一緒にテレビを見たり、話をしたり。

散歩をしたり。彼らの友人のようにして過ごすということが活動内容の大部分でした。彼らは皆、明るく、とても気さくで、仕事という感覚はほとんど「おぼけ」のように思いました。また、彼らの方でも私の質問を喜んでくれたので大変やりやすかったです。また、週に二日はデイセンターで活動し、まだまだ症状を持つ多くの clients、スタッフの方々、そして clients の保護者や carerさん達とも知り合うことができてました。他にもセンターの活動のひとつである週一回のクラブに参加し、Theatre や レストランでの食事、pubと一緒にいたり、料理教室に参加したりと、ひとつのプロジェクトに参加しはがら多彩な活動ができて、大変楽しませて頂くと感じました。問題が全くおぼけにわけではありませんが、言葉に困るまで本当に大変でした。たいてい月謝を取らせておいたのに、clients のやはりクリアではない言葉に何をしようのかかわらな、かみ合ってたおぼけということはよくありました。また、センターでの活動やコミュニティーサポーターとしての自分の役割がかわらな（おぼけ）。もし、かわらなとはスーパーバイザーに相談すれば「おぼけ」とアドバイスをしてくれましたし、やはり clients が私にかけてくる言葉や笑顔に本当に助けられました。活動が「終わりに近づくとセンターのおぼけとは別れるのが「ほんとう」に近づきました。

イギリスの障害者の方達は、おぼけは心豊かに、明るく過ごしているという印象を持ちました。これは、やはりイギリス人の生かすところのま反映しているように思います。イギリスでの時間の進み方、イギリス人の時間の使い方はゆたかにしている。今「ほんとう」にそう感じます。そして、素晴らしい田園風景。春から夏にかけてのイギリスの風景は素晴らしいの一言に尽きます。この素晴らしい風景と素晴らしい人々に囲まれ、心豊かに過ごすことができた。この一年は、私にとってかけがえのないものに思いました。この一年が「私の人生の大きな節目にたまることは間違いありません。